

## ～ポー川 (Po) (イタリア トリノ)～

光岡 希

中学校を卒業してすぐ、私はイタリアにあるトリノという街に引っ越した。高校生活を丸々そこで過ごしたのである。トリノはイタリアの最北に位置する街であり、車産業が盛んな工業都市として有名だ。2006年には冬季オリンピックの舞台となったこともあり、今や多くの人がある街の名を知っていることだろう。そんなトリノには、イタリアで最長とされている川、ポー川が流れている。

私がトリノに引っ越し、始めて街の中心部を訪れた時まず目に入ってきたものが、ポー川を象徴する神の象だった。大きな石台の上にゆったりと座っているその象は非常に大きく、又神々しさを感じられ強く印象に残った。様々な偉人達の象が建てられているトリノの街に、その偉人達よりも大きな存在感を放つその象から、ポー川の存在がトリノの街の人々にとって大きく偉大なものであることが日本人の私にも伝わってきた。そして、実際の川も、数百年前からそこに在るイタリアの町並みの迫力に負けず劣らず、見事に街の風景と調和しており、それはまるでポー川もトリノに住む1人のイタリア人であるかのようだ。水は決して透明とは言えない。しかし、良く表現するならばその水の色はオリーブ色と表現することが出来るかもしれない。濁っているが、その色は大昔からそうであったのではと思わせる程トリノの街に合っているように感じられるのである。遠くから見ると、流れは穏やかで毎日同じ表情を見せているように思えるが、実際に近くに寄って見てみると、流れは時に激しく、時に穏やかであり、その表情は様々であることが私は次第に分かっていった。天気が良く流れが穏やかな時は、川際にトリノ大学の生徒達がサークル活動か何かの為に練習を行っている姿を見ることができ、たまにカヌーの練習をしている人々も見にすることができる。ポー川は、人々の憩いの場としても存在しているのである。

私が住んでいたモンカリエリという地域からトリノの中心部に行くには、どんな行き方をしてもポー川にかかった大きな橋を渡らなければならなかった。トリノへ行くために掛けられている橋は全部で5つあり、そのどれもが装飾的で大きくポー川に敬意を払っているように見えるだろう。その橋には常に、車、自転車、バス、犬の散歩やマラソンをしている人々が行き交い、私自身、友達と会う時や、買い物、習い事などでしょっちゅう中心部へと出かける為に橋を利用していた。つまり、日常生活において川を目にしない日はほとんどなかったと言える。また、川沿いには沢山のレストランやカフェが存在している。イタリアならではのピッツェリア(ピザ屋)から簡単な喫茶店のようなものまで様々で、私も多くのイタリア人に混ざり、そんなレストランでポー川を眺めながら食を楽しむことがしばしばあった。トリノの町に住む者として、ポー川を知ることとは義務であるのか、私が行っていた高校(インターナショナルスクール)では、ある

日、ポー川沿いの道を歩き川の姿を描写するという美術の授業があった。大きい川は、その時少し霧がかっていたが、それが一層川の壮大な雰囲気を出していたのを今でもよく覚えている。

ポー川の存在は人々にとって偉大な存在なのだとことがFIAT社のあるプロモーションからも伺えることができた。FIAT社はトリノを代表する車会社なのだが、新作を発表する際に、初めて川沿いでのプロモーションを行ったのだ。川と、川際に位置するグランマードレという大きな教会を背景に、新車を発表したのである。野外で、しかも川沿いで行われたプロモーションは世界初であり、地味ながらもメディアが注目しテレビでも放映された。普段は静かに大人しく流れている川が、その時は綺麗にライトアップされ輝いていた映像はとても美しく、今でも忘れることが出来ない。

私がイタリアに渡った時から世話になっていたイタリア人がいる。名前をエンリコ・フミアといい、現在58歳。生粋のトリノっ子だ。今回、ポー川の昔の様子について聞いてみると、最初はなんでそんなことを聞くのだろうと不思議な顔をされてしまったが、少し考え込んだ後は段々とその様子について話してくれた。彼から一番はじめに出た言葉は、「もうちょっと魚がいたかな」だった。私は、川の中にどんな生物が生息しているかが分かる程近くに行った事がなく、あの川にも生物がいるんだと当然のことを非常に今更ながら気付いてしまった。海と繋がっているのだから当たり前だった。エンリコは小さかった時よく自分の父親と釣竿を持ち、ポー川沿いで魚釣りを楽しんだそうだが、今では釣りをしている人の姿を見るのは本当に稀だという。確かに、私は4年半ポー川と接しながら生活していたが、釣りをしている人を見た記憶はない。もしかしたら少しはいたのかもしれないが、記憶に残る程沢山の人ではなかったと考えられるだろう。エンリコは更に「もっと水が綺麗だった」と話した。私が当たり前のように見ていたオリーブ色の水は、昔のポー川を知る人の目には汚く映っていたのだ。以前はもっと澄んでいたということだ。以前は水浴びをしている人が今より沢山いたんだということも教えてくれた。そして、彼の人生で2回、川は氾濫を起こし町が水没しかけた話をした。彼の中では、比較的最近に2回目があったと言うのだが、それは具体的にいつなのかは記憶していないようだった。彼の家も私と同じモンカリエリにあるのだが、モンカリエリは丘になっているので、ピエモンテ州（トリノ、モンカリエリがある州）では大雨が降ると、モンカリエリに降った雨が全てトリノの方へ流れていき川に行きつく。そして、その結果川の氾濫を起こしてしまう、ということだった。川沿いに住んでいる人達は、今でも大雨が降るとハラハラして川を見守っているのだろう。他にも、川は戦後まで運搬経路として使われており、飛行機の着水場所としても使用されていたことを教えてくれた。戦後に飛行機が着水する様子は、とても圧巻だったに違いないだろう。

「ポー川」とインターネットで検索（Google）してみると、さすがイタリア最長の川だけあり6340件のサイトが引っかった。一番初めの画面に映

ったサイトは、全てポー川の特徴について触れている。アルプス山脈に源流を持ち、アドリア海につづく650km強の長さを誇り、その水はヨーロッパ有数の農産業地域（特に、トマト、小麦、果樹栽培や酪農）を作っている。古代ではパトゥス川と呼ばれ、トリノ、ピアチェンツァ、クレモナ、フェッラーナ等の町を通過しているとのことだ。そんな百科事典的なサイトが連なる中、私はとても驚きのニュースを発見した。それは2005年8月9日にアップロードされたもので、タイトルは「ポー川はコカインまみれ」というものだった。まさか、と思いそのサイトへ飛んでみると、そこには衝撃の事実があった。なんと、ポー川は毎日約4千キログラムのコカインに相当する代謝物が川に流れ込んでいると書かれているのだ。その原因は「尿」だという。コカイン服用者は、ビールと同じようにその証拠が尿に出る。ベンゾイルエクゴニン（BE）という薬物を使用した際のみ排出される代謝物が尿と共に川に流れ込み、それが大量に検出されたというのだ。残留していた量から計測するに、ポー渓谷の住民全体で、コカインを1日少なくとも4万回吸引していることになるというのだから驚きである。その数は、国が出していた1日に1万5千回を大幅に上回った数字であったのだ。川に流れこむ薬剤による環境汚染の専門家は、プライバシーを侵害することなくドラッグ使用者数を特定できるこの方法を以前から推奨していたらしい。綺麗だと思っていた川が、実はコカインまみれだったという事実は私に非常に大きな衝撃を与えたのは言うまでもないだろう。川に魚が減るのも、水浴びをする人が減るのも、それは当然なことだった。自分達の街に流れる川がコカインまみれだと聞き、街の人々はどう思ったのだろうか。

ポー川は、壮大で美しい。しかし、その水は確実に汚染され、生態系も次第にボロボロになっているようだった。ポー川の像が祭られ、人々の憩いの場として存在しているポー川は、確実に人々から愛されている。ポー川沿いでランチをする人の笑顔や、川沿いで昼寝をしたり、サークル活動をしたりする人々の姿は幸せそうで、そんな表情から私は人々の川への愛情を感じていたのだから間違いはないだろう。もし、これ以上汚染が進んでいくのならば、決して街の人々は黙ってはいないはずだ。街の風景に溶け込み、生活に密接しているポー川だからこそ、その川が汚れるということは街が汚れることと全く同じであり、それはつまり人々も汚れていくことに繋がると私は考える。きっとそれは街に住む者全員の考えだろう。ただ、イタリア人は非常に腰が重い。楽観的であり、いつかどうにかなるだろうと思っている人が大多数である。そんなイタリア人達の腰があがる頃、川は一体どんな表情をしているのか不安だ。数年後も、数十年後も、せめて、私が高校時代を過ごしながらか見てきたポー川と変わりなくあって欲しい。

## 参考サイト

MSN エンカルタ百科事典

[http://jp.encarta.msn.com/encyclopedia\\_761552893/content.html](http://jp.encarta.msn.com/encyclopedia_761552893/content.html)

(2008年1月8日アクセス)

Wikipedia

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9D%E3%83%BC%E5%B7%9D>

(2008年1月8日アクセス)

WIRED VISION

<http://wiredvision.jp/archives/200508/2005080903.html>

(2008年1月5日アクセス)